

# 追い込まれた人間の心理

## 恐ろしすぎる顔面鍋事件

2015年12月に起きたこの事件の概要が最近のニュースで報道されたことは、多くの方がご存知のことと思います。

この事件は、某芸能プロダクションが主催した忘年会で起きた。取引先や所属するモデルが出席する中で、社長は被害者男性（以下A氏）に「おもしろいことをやれ」と強要し、A氏が「できない」というと、アルコールを強制的に飲ませ、さらにA氏の首をつかみ、沸騰しているしゃぶしゃぶ鍋に顔を押し込んだと言われています。

A氏はその後、正座した状態で過ごし、1次会の終盤に社長から「顔ほんとやばいから帰った方がいいよ」という発言があったといえます。翌明け方、A氏は緊急外来に行き、応急処置を受け、顔面第2度裂傷、皮膚感染症、湿疹と診断されたそうです。

もちろん、その社長の言動も問題ですが、それ以上に、そこにいた他の社員やクライアントは、「これはやりすぎ」という意識はなかったのでしょうか？仮にその意識があったとして、なぜ止めに入らなかったのでしょうか？

## 言いたいことも言えない環境

この事件について、メディアではパワハラとして報道されていますが、多くのコメントターは、「これはパワハラではなく、傷害事件だ」とコメントしています。

しかし、なぜ被害者であるA氏は、これに対し何の抵抗も示さなかったのでしょうか？これについて、A氏は「社長からの日常的なパワハラで追い詰められていた」と発言しています。

このことから分かるのは、人間は精神的に追い込まれたら、恐れや動揺で正常な判断が出来なくなり、おかしいものをおかしいと言えなくなるということです。

私たちに当てはめて、考えてみましょう。私たちは労働者で会社とは持つべき考えが全て同じとは限りません。会社の論理に支配され、会社や上司が言っていることだから正しいと、単純に思い込んでしまった場合、悪質なパワハラさえも正当化されてしまいます。これは、決して他人事ではありません。

私たちも、労使の視点を意識しながら、何が正しくて、何が間違っているのかを自分の頭で考えながら働きましょう。



視野を広げるため、一緒に学習しましょう。



# 若い力

第108号

2018年 12月15日

発責 国労九州本部

博多区博多駅東3丁目9番3号

ニッコーハイツ1003号

JR 092-2075

NTT092-483-1515